



洋書輸入協会会報

Vol. 28 No. 10 (通巻329号) 1994年10月

海外ニュース

故ロバート・マックスウェル夫人自伝に 出版中止請求

元ディリー・ミラー紙編集者 Roy Greenslade 氏とマックスウェルグループに対する年金訴訟団は、故マックスウェル氏夫人の自伝の刊行を遅らせるよう出版元の Sidgwick & Jackson 社に請求した。‘A Mind of Own’ と題されたベティ・マックスウェルの自伝は、新聞連載の後11月25日に刊行される予定である。請求の理由は、審理中の年金裁判においてマックスウェル氏の息子側に有利な影響を及ぼすと予想されること、他の執筆者によるマックスウェル氏に関する著作の刊行は遺族により妨害されており、夫人の自伝のみ例外扱いは許されない、というものである。(マックスウェル財団の未払いの年金額は約300万ポンドといわれている。)既に、故人の兄弟からの請求によってマックスウェルの生涯を描いたミュージカルの上演は、裁判に影響を与えるという理由で差し止めとなっている。これに対し出版社側は、夫人は夫婦・親子関係について事実をありのままに述べており、差し止めになるような問題は一切なく、また73歳のベティが1日10時間かけて執筆した動機は残された負債の処理のためである、と主張している。

—Bookseller, 1994. 8. 5号より抜粋—

『100年前のブッカー賞』キャンペーン

昨年の ‘Booker of Booker’ に引き続き、1894年のブッカー賞を選ぶという新しい企画が進められている。この試みは新エブリマン文庫の Hilary Laurie 氏の発案により始められた。審査員の Billian Beer, Melvyn Bragg ら6名は、エブリマン文庫100冊から各自の推薦タイトルを選び1994年のブッカー賞候補が決定した直後に受賞作を選定する。エブリマンは、この賞が文庫の拡販の一巻として毎年恒例行事として定着することを望んでいる。ブッカーは、この企画に名称・ロゴの使用を許可してはいるが、財政面での支援は行っていない。ちなみに、自分の推薦タイトルが受賞した審査員への賞品は、新エブリマン文庫1セットで、これを希望する学校に寄付することができる。肝心の1894年の刊行物の方はトーマス・ハーディや H. G. ウェルズの活躍した19世紀末の最後の数年間に比べて幾分地味ではあるが、キプリング (ジャングルブック) やアントニー・ホープ (ゼンダ城の虜)、ジョージ・ギッシング等の名が並んでいる。

—Bookseller, 1994. 7. 15号より抜粋—

海外ニュース1	総代理店ご案内3	洋書輸入協会®5
データベース '94 東京2	おしらせ3	東京の坂と橋と文明開化®7
会報広告掲載料等のご案内2	文化厚生委員会だより4	広告8
うちの会社3	海外からの来信4	

Database '94 TOKYO 報告

松 山 裕 二 (ユサコ株式会社)

去る、平成6年9月7日(水)より3日間、東京・池袋のサンシャインシティ展示ホールA(ワールドインポートマート4F)を会場として、恒例のDatabase '94 TOKYOが開催されました。

まず、概要を報告します。主催は財団法人データベース振興センター(DPC)と日本データベース協会(DINA)です。洋書輸入協会のメンバーの内、数社がDPCとDINAの一方あるいは両方の会員になっています。

3日間の入場者数総数は、主催者発表で35,443名で昨年より約3%増加しました。来場者は、最終日が一番多かったようです。

出展社は89社、総小間数は203でした。この数はこの数年あまり変化はないようです。展示と並行して出展社によるプレゼンテーションセミナーが行われ、28社が各45分間の持ち時間を使って、サービスや製品を紹介しました。セミナーの会場は展示場と同じ建物の8階で、約100名規模の部屋です。

気になる費用は、小間の装飾を入れると一小間約50万円かかります。

展示の内容はこの数年間で大きく変化し、現在では大

部分の出展社が、なんらかのCD-ROM製品をデモンストレーションするようになりました。依然としてオンラインの展示も盛んに行なわれていますが、CD-ROMの印象がより強くなってきています。

また、CD-ROM関連でも、商品数の増加、対象分野の拡大、音声や画像を含むマルチメディア商品、CD-ROMをメディアとする小規模な出版のための作成システムおよび装置などへ展示商品が多様化してきました。今後一二年間はこのような展示傾向が続くと思われます。

私の個人的な印象では、今回の展示では、インパクトある商品は少なかったように思います。CD-ROMは市場性ある商品として定着してきましたが、未だ市場規模は小さいのが現状です。Online系とパッケージ系を融合させた様な情報提供方式や、電子ジャーナルなどがどの様な形で商用提供されるようになるのか、来年以降の展示を注目したいとおもいます。

なお、展示場では、来場者が受付で列をなし、通行の妨げになっていた事や、ブースでの鳴ものの喧騒など、改善を要する点もありました。

洋書輸入協会会報・広告掲載料等のご案内

1994年10月

(1) 広告掲載料	A) 全 頁(表紙④)	(max. タテ20cm×15cm)	15,000円
	B) 2分の1頁(記事中)	(max. タテ10cm×15cm)	8,000円
	C) 3分の1頁(記事中)	(max. タテ 7cm×15cm)	5,000円
	D) 4分の1頁(記事中)	(max. タテ 5cm×15cm)	3,000円

(完全版下の原稿を送付のこと)

(2) 総代理店案内	1行(25字)あたり	300円
------------	------------	------

(3) その他の有料扱い	上記以外のもので、その内容が宣伝・広告の要素が強い記事については、寄稿者と相談のうえ有料扱いとすることがあります。料金はおおむね上記に準じます。		
--------------	--	--	--

ご不明の点は事務局にお問合わせください。

うちの会社

(株) 医学書院

医学書院は昭和19年(1944)8月18日に創立されましたので、本年8月に満50周年を迎えました。

その創立は、戦時下の企業整備令によって、金原商店が2分され、書籍部を以て日本医書出版(株)、雑誌部を以て日本医学雑誌(株)となり、同業数社との整理統合が行われた統制会社でした。敗戦後、書籍会社は金原出版株式会社として、雑誌会社が医学書院としてそれぞれ発展を遂げ、今日に至っております。

金原商店の創始者金原寅作(医学書院社長金原優の曾祖父)が明治14年にドイツ医学書の輸入を開始し、翌15年には医学書の出版を行い、以来、医学図書の出版と洋書の輸入を生業としておりました。

医学書院は、戦後、雑誌の復刊、創刊を意欲的に推進し、それと平行して書籍の出版にも積極的に取組み、更に、戦争末期から途絶えていた洋書の輸入を昭和27年に再開し、戦前からの伝統を継承、発展させる形で今日までの成長を果たして来ました。

現在は、従業員数250人、出版部門では医学、看護領域の雑誌31誌、年間書籍発行点数160~170点、更に New York の子会社 Igaku-Shoin Medical Pub-

lishers, Inc. からは年間20~30点の英文書籍を出版しております。

また、新しい媒体としての電子出版にも着目し、既に自社出版物を CD-ROM 化した製品を完成、発売して好評を得ており、昨年には子会社として医学書院イーピーを設立して、一層の発展を期しております。

洋書部門では欧米各国の出版社、学会、協会との直接取引による医学書籍、雑誌の輸入、販売を行い、多くの出版社との代理店契約により迅速、確実な供給を進めております。

Little, Brown & Co. との合併による(株)メディカル・サイエンス・インターナショナル、Mosby-year Book, Inc. 及び Waverly, Inc. との合併による(株)医学書院エムワイダブリューは、いずれも海外出版社との密接な提携により洋書輸入業務の積極的な展開を目指しております。

医学書院は、本社ならびに子会社、合併会社を含むグループが相携え、出版と輸入とを両輪として、医学領域の情報伝達を使命とし、医学の発展に資することを願っております。
(石原隆良)

総代理店ご案内

ユナイテッド・パブリッシャーズ・サービス社

☎ (03) 3291-4541

代理店業務の開始

レンゾ・ピアノ建築作品集第2巻

Renzo Piano Building Workshop:

Complete Works, Vol. 2 by Peter Buchanan

1994年10月刊 (Phaidon Pr.) ca ¥11,200

代理店業務の停止

Peter Smith Publisher, Inc. (U.S.A.)

おしらせ

(株)穂高書店は自社ビルを新築し11月7日(月)より下記の住所で業務を開始する旨連絡がありました。

新住所: ㊦112 東京都世田谷区池尻2-16-10

☎ (03) 5430-0331 (代表)

Fax (03) 5430-0330

フォーティ・ラブ（テニス同好会）報告（9月）

1994. 9. 30

本年3回目の親睦練習試合は、9月10日（土）の午前9時～午後5時迄、津久井湖畔「プチビラ」で行われた。当会は、昨年は合計3回の親睦行事を、毎回平均25名程度の参加者を迎えて挙行できた。今年は、4月2日（土）に「プチビラ」で「初オープン戦」、5月27/28日には箱根小湧園一泊、翌朝明神平サニーパークで「初夏オープン戦」を開催。その余勢を駆って待望の「サマー・オープン戦」は、予想外の酷暑、テニス施設の混雑、各メンバーの業務多忙等々の理由で、夏休み明けの9月上旬に延期となった。今回は、巻積雲もたなびく秋晴れの好天に恵まれ、硬式テニスの強豪／常連、御同伴のご婦人、御子弟等々総勢24名参加の盛況で、大変愉しく、エキサイティングなゲーム展開となった。「プチビラ」の昼、夕食やハウスインも賞味。ハードコート3面を終日使って、初心者へのコーチングも含め、平均すれば各プレーヤーは、6ゲーム先取性で平均4セット程の実戦を体験されたはずで、今回は、特に常連のシニアクラス（西沢、荒木、田中、出口各氏等）や御夫人方（関口、松浦各夫人他）に好打と試合運びの巧さが光った。生憎、秋

季の学会展示等の業務多忙で、今回は、ロングマン、H B J、洋販各社の強豪常連は参加できなかったが、次回参加を楽しみに待つ。次回は10月22日（土）に、紀伊国屋書店の山中湖畔荘（コート2面有）にて開催。前夜一泊も歓迎。海拔約1千米の高地／湖畔の白樺林に囲まれたクレイコートで、是非、テニスの腕を磨かれたし。日帰り参加での新人、若手社員は大歓迎。

（タイ・ブレイカーW生）



海外からの来信

最近協会事務局に届いたものをご案内致します。もっと詳しい情報を知りたい会員は事務局にご連絡下さい。レターのコピーなどを差し上げます。

- 1) P. P. Agency (Czech Republic) July 7, 1994付
チェコの雑誌およびチェコの法律集などの勧誘。
- 2) American International Trade Corp. (U. S. A.) Aug. 1, 1994付
米国のコミックブックを日本の卸売り業者に売りたい。業者を紹介して欲しい。

- 3) 王 紅旗 (China) Aug. 11, 1994 付
新しい角度で中国文化を研究している。10数点の本を著した。販売、出版に興味のある会社を紹介して欲しい。
- 4) Journal Price List for 1995
次の出版社の Price List がきています。
Medical Library Association (U. S. A.)
——広報渉外委員会——

104 昭和38(1963)年度(s38.4月～s39.3月)の規約改正、理事改選、新入会員、退会者、業界消息など(前号よりの続き)

104.11 その他の出来事(前号よりの続き)

(1) Cambridge U. P. が Donald Moore を Exclusive Agent とする(前号よりの続き)

昭和38(1963)年8月21日、理事会有志と Donald Moore とが会合し、頭記の問題について懇談した。

先ず理事会有志側より、今回の Donald Moore の Exclusive Agent 取得は、通常の洋書輸入・販売業者の取得の場合と異なり、Representative が Wholesaler に転化することであり、各社は従来の直輸入からワン・クッションを置かざるを得なくなる、こうなると、直輸入をしていた側の利益は減少するであろうし、そのために対立関係をもたらす可能性もないではない、原則的に疑義があると思うが Donald Moore としてはどのように考えておられるかと問題を提起した。

これに対し Donald Moore 側よりは次のような説明があった。

(a) Donald Moore は、Policy として Exclusive を押し進めるつもりはなく、今回の Agent の件は、Camb. U. P. の側から極東全域を含め自発的に与えられたものである。

(b) Camb. U. P. 側がこのような措置を取った理由は、取引を合理化したいことと、極東全域の取引先には信用上不安な所がないでもないし、London からはあまりにも遠いので、これらをコントロールする力を Donald Moore に与えたい、この二点であり、背景には永い間 Donald Moore が Camb. U. P. の Rep. を勤めた信頼関係がある。

(c) Donald Moore にとって Exclusive を与えられることには、プラスの面とマイナスの面とある。例えば Camb. U. P. の日本向け輸出は、同社全体の輸出量の4%であり、日本への輸入量の中、Donald Moore 扱いは70%、各社の直取引は30%である。であるから、直取引の30%のために売上向上の全責任を今後 Donald Moore が負わされることになるのは、好ましくないことである。

しかし、協会員各社との話し合いによっては、いかようにも相互の利益を向上させつつ、売上を伸ばすことが出来ると思われる。

以上の懇談より察すると、Donald Moore 側は Exclusive Agent の問題がこのように小売側に受け取られるとは考えていなかった様子であった。また理事会有志側としては、Exclusive の問題は基本的には出版社側と Agent の間の問題であり、既に決定しているものを覆すことは困難であるにしても、続発することは防ぎたいし、また利益率を低下させないよう条件を設定することも必要であろう。従って理事会にこの件を報告相談の上対策を講ずることとした。

8月27日の理事会に上記の件が報告され、対策が論議されたが、Camb. U. P. が Exclusive を Donald Moore に与えたことについては反対の意向を表明することに決定、先ず同社の斉藤氏に理事長代理よりこの意向を伝え、同氏が近々のうちにシンガポールを訪問することになっていたのを聞き、その際に Donald Moore 氏へこの旨を伝え、相談して来るよう依頼した。

しかしながら、その結果は不調に終わったので、9月11日の理事会において、Camb. U. P. に対し「今回の措置は我々にとって好ましくない」旨を文書で申し入れることとし、9月28日付でこれを発送した。これに対しては12月11日付の Camb. U. P. 側の返事で、丁重に拒否をされている。

以上の件は、総代理店問題が起り始めた全く初期の頃の話であるので、いささか詳しく述べた次第である。

(2) 海賊版の件

昭和38('63)年度は珍しく海賊版の話題が少なかった年であるが、年度も終りかけた昭和39('64)年2月25日の理事会で、McGraw-Hill 社から次のような報告があった。即ち、Perry の Handbook は新刊原書輸入(昨年10月)後一年間はリプリント版を作らないという約束であったが、海賊版の案内を発見したので、早急にリプリント版を作り、本年6月1日には出版したいとのこと。理事会ではこれを諒承した。

(3) ケネディ暗殺される

昭和38('63)年11月22日、米国のケネディ大統領が

ダラスで暗殺された。

105 英国書展示会の開催

105.1 話の始まり

昭和38（1963）年8月10日付、JBIA No. 170 では次のように会員に知らせている。

記

8月7日開催の懇談会についての報告

前段略

(4) 報告事項

(イ) ドイツ書展——略——

(ロ) 英国書展

明年4月東京大手町産業会館にて、英国書展が開かれることになりました。出来ればその後京都・名古屋を巡回することになっております。

主催は英国出版協会、英国文化振興会ですが、これに当協会及び日本出版協会、国際文化交流会及び在日英国出版社の代表各社が加わって運営される構想であります。目録2万部発行予定、2日間の業者のみの観覧日を設けるなど、英国書の受注宣伝と販売促進並びに文化交流の実を挙げようとするものです。展示は書籍約4,200点、雑誌600点が予定されております。更に詳細は判明次第御知らせ致します。(以上)

この件については、当日の懇談会に先立つ理事会において、丸善の司社長が昨年英国を訪問したときに、このような機会にはよろしく頼むと洋書輸入協会側の協力を依頼され、これを承諾、また出版協会の江草氏が訪英したときもこの話が出て、今回の英国側の提案はこれらが具体化されたものであるとの報告があった。

この計画に伴う委員会としては次の二つを作る。

(1) Advisory Committee

英国出版社協会代表、British Council 代表、洋書輸入協会代表（理事長）、出版協会代表（江草氏）、出版文化国際交流会代表、在日英国出版社代表

(2) Sub Committee

この展示会をどのようにして Trade と結びつけるかを検討するものであり、British Council 側より、Chairman として丸善を、副として紀伊國屋書店を指名して依頼してきた。以上の人事につき理事会において諒承。

その他カタログ、宣伝、展示会スケジュール、予算、著名人の文化交流などについて意見が交換されている。

105.2 紆余曲折

話の始まりは順調であったが、その後英国側と協会側との連絡が途絶え、どうなっているのかを案じていた折、出版文化国際交流会からの声がかかり、12月23日に同会において Sub. Committee が開催された。出席者は同会専務理事の中島氏、丸善、紀伊國屋書店、Oxford 川協氏、Donald Moore 斉藤氏である。

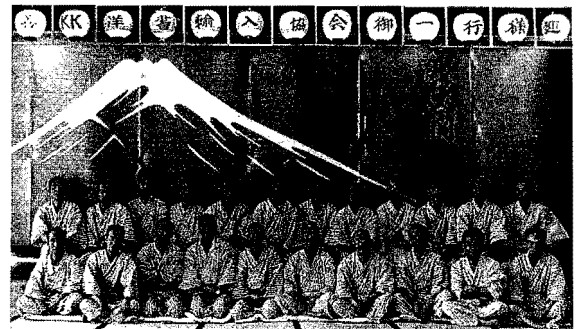
席上の話では、British Council の日本の係官が交代してから、万事に連絡がスムーズさを欠くようになった。また British Council 側は、日本の窓口を中立的な存在である社団法人の出版文化国際交流会に絞りがたっており、相談は協会でなく交流会宛に行われている。(次ページへ続く)

今のところ British Council は予算不足から、展示会は東京のみに重点をおき、地方開催はやるとすれば日本側の負担でやって貰いたい様子である。

ところが出版文化国際交流会は、展示会が開催される来年はスケジュールが詰まっており、予算も人手も少ない上、British Council 側の意向に無理が多くて、前途の多難が予想される所から、どちらかというところ消極的に見受けられた。

今までに British Council から交流会宛に申入れて来たことは、本は既にロンドンを出ており、交流会側で展示会まで保管しておく場所を探してくれ、展示会の巡回費用が非常に高いので、オリンピックのときに再度東京で展示会をするとすればその費用を交流会で出せるか、展示会場の注文受け付けの件と、日本に代表を持たない英国の出版社の本をどう扱うかを洋書輸入協会と相談して欲しいなどである。また展示会のレイアウトとデザインは野村工芸社に依頼した、ポスターは5000枚作る、カタログも British Council で作る、などである。

(この項続く)



昭和38(1963)年7月14日、洋書輸入協会懇親旅行、於伊東温泉菊屋旅館

港区の坂と文明開化〔2〕 公使館めぐり

丸善・本の図書館 鈴木 陽 二

◆日本の近代化とオールコック公使

幕末・明治維新における日英外交通史を述べてもあまり意味がないので、イギリス公使館と公使館員が日本の近代に果たした役割・貢献といったような側面を調べ、あわせて、イギリスにおける初期の日本研究の様子も探ってみることにしよう。

日米修好条約が結ばれたことを知ったイギリス政府は、モリソン号事件（第2次阿片戦争）の紛争解決で清国に派遣していたエルギン卿（James Bruce Elgin）を日本へ送り、彼と幕府との間で「日本国大不利願国修好通商条約」が締結されたのは1859（安政5）年であった。このとき、東禅寺襲撃事件で負傷したオリファントも随員で来日している。彼はケープタウンで生まれたイギリスの旅行家で、ヨーロッパ、アジアなどを周遊したのちエルギン卿と知り合い、秘書として清国・日本で彼と行動をともにしたが、その時の体験を記した“Narrative of the Earl of Elgin's Mission to China and Japan”（1858）は当時大変評判になったもので、アーネスト・サトウは18歳のときにこの本を読んで空想を駆り立てられ、日本へ渡る決心をしたという。日本に関する文献を駆使して執筆した力作で、往時の日本を知る重要な文献のひとつである。この日本の部分を翻訳したものが『エルギン卿遣日使節録』（1968、雄松堂）として刊行されている。彼はまた、イギリス公使館の医師で日本の近代医学扶植に功績のあったウィリアム・ウィリスと共著で“Episodes in a Life of Adventure: or Moss from a Rolling Stone”を上梓し、その中に東禅寺襲撃事件の記録とロシアの対馬侵略事件に関する彼の文章が収録されている。日本語訳も『英国公使官員の維新戦争見聞記』（1974、校倉書房）として出版されている。

さて、日英修好通商条約にもとづき1859（安政6）年に駐日総領事オールコックが赴任し、東禅寺を仮公使館に定めて対日外交を開始したが、アメリカ、フランス、オランダ、ドイツなど各国の思惑や利権が入り乱れていた幕末日本の騒然とした国情の中で、東禅寺襲撃事件、生麦事件、薩英戦争、下関砲撃事件など次々に発生する難問に直面しながら強硬な外交を展開した。イギリスの

国益を拡充しようとする彼の執念はほかの駐日公使を抑えて対日外交にイニシアチブを握ることに成功し、下関砲撃などは彼の唱導で進んだ事件であった。後年この事件の後処理をめぐりラッセル外相の命令違反で本国に召還され、駐日公使が解任となる。しかし、ここでは彼の文化人としてのプロフィールを追ってみることにしよう。

オールコックはこわもての外交官という顔だけではなく、当時日本に派遣された外交官の中では抜きん出て高い教養を身につけた人物であったと言われており、優れた日本関係の著作を多数著している。“The Capital of the Tycoon”（1863）はもっとも著名なもので、彼の対日外交活動の記録であるとともに、この時代の日本の社会・文化を詳細に書き記したもので、幕末の日本の姿を知る上で欠かせない文献である。日本語訳も『大君の都』として岩波文庫から完訳が刊行されている。彼はまた日本の美術工芸品をこよなく愛してその研究も行っているが、その成果は“Art and Industries in Japan”（1878）となって公刊された。この著作の一部が「日本美術の特徴」として訳され、『外国人の見た日本』（筑摩書房）第2巻に収録されている。また、彼は富士山に登頂した初めての外国人であったが、このときの体験記を後年会長を務める「王立地理学会」の機関誌に寄稿しているし、『大君の都』でも詳細に記している。また、同行したロビンソン少尉により富士山の高度、経緯度、噴火口の状態など初めての詳細な科学的調査が行われた。

オールコックのもうひとつの日本に対する寄与は、幕府から開港の延期交渉が持ち出されたときにイギリス本国に使節団を派遣して政府と直接交渉することを助言し、その斡旋を行ったことであるが、この1862（文久1）年の「遣欧使節」が日本からイギリスへ初めての本格的な渡航となったものである。日本が近代化を進める過程でイギリスへ多くの人材が渡って先進的な学術・文化を摂取したが、この使節団がその第1歩を踏み出したものであった。オールコックの真意や使節の成果がどうであったかはともかくとして、間もなく始まろうとしている日本近代化への序曲として、この1年に及ぶヨーロッパ諸国歴訪の波及効果は大きかったものと思う。

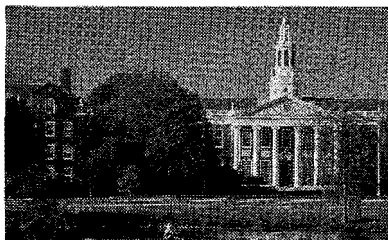
速報

米国ハーバード・ビジネススクール マネジメント・プログラム 日本語版 発売開始のご案内

世界最高の経営大学院の一つである米国ハーバード・ビジネススクール・マネジメント・プログラムの日本語版が遂に発売されます。

このプログラムは、マイケル E. ポーター教授をはじめとするハーバード・ビジネススクールの当代一流の教授陣が提供するもので、既に米国では教育機関、企業のトップ・マネジメント等より、絶大な支持を受けているものです。今回発売いたします日本語版は、4タイトルですが、全11タイトルを順次日本語化する予定があります。

各タイトルともビデオプログラム、ユーザーマニュアル他の各種印刷物等で構成されたコンプリート・パッケージになっており、豪華なケースに納められています。



10月21日発売

競争優位を確立するための強力なテコ

マイケル・ポーター教授の

競争の戦略 ¥280,000

タイムベース

「時間」それは競争優位の為の新しい視点である

タイム・ベース・コンペティション ¥230,000

「トランスナショナル」の構築と運営

地球市場時代の新企業戦略 ¥480,000



'95年1月21日発売

21世紀へ向けての新戦略コース

マイケル・ポーター教授の

国の競争優位 企業版 ¥550,000
政府版 ¥480,000

○ビデオは、音声多重方式(主音声に日本語、副音声に英語)で録音されています。
○日本語版パッケージには、副次教材はいずれも英文/和文各1部ずつ付いております。

●お問い合わせは下記へ

GMS

A MEMBER OF
THE SONY GROUP

ハーバード・ビジネススクール
マネジメント・プロダクションズ日本総代理店

株式会社 グローバルメディア・システムズ

〒105 東京都港区浜松町2丁目5番5号松井ビル

(映像営業部) TEL.03-3433-4375
FAX.03-3437-1778

1994年10月 通巻第329号 洋書輸入協会

編集者 神田 俊二

〒103 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室

TEL.(03) 3271-6901 FAX.(03) 3271-6920

印刷所=藤本総合印刷株式会社